

# 空き家・土地 活用法募る 鶴岡・神明町

## ネット上に街を再現

### 研究会「歩き回り」意見ぜひ

鶴岡市内の空き家や空き地の有効活用に取り組む「市ランド・バンク研究会」（阿部俊夫会長）は、同市神明町の空き家活用のアイデアを募るため、インターネット上に町並みを再現した仮想空間「バーチャル・プラット・シティ」をオープンした。「まちづくりの取り組みに仮想空間を活用するのは全国初」（市建築課）で、来年1月10日まで幅広い世代からの意見を募集している。



「セカンドライフ」に再現された鶴岡市神明町の仮想空間（鶴岡市提供）

市や市内不動産業者などで構成する同研究会は、密集市街地での空き家や空き地、狭小道路などを一体的に整備するランド・バンク事業を展開している。首都大学東京の饗庭伸准教授の指導を受けながら神明町をモデル町内会に選定して「神明町まちづくり計画」の策定に取り組んでおり、その一環でより多くの人たちからアイデアを寄せてもらおうとサイトを開設した。

神明町の仮想空間は、ネット上の「セカンドライフ」

に町並みを立体的に再現し、63棟の空き家（昨年10月現在）のうち30棟ほどが描かれている。実際に町内を「歩き回り」、意見を書き込むことが可能。外壁や内装などが描かれているのが空き家で▽住宅▽自由に使えるコミュニティセンター▽宿泊施設▽店舗などの選択肢から活用方法を考えてもらうという。

参加するにはセカンドライフの登録（無料）が必要で、書き込む際は語尾に年齢と性別を記入する。市中心部の高校や大学にもチラシを配布しており、市担当者は「多くの考えを神明町のまちづくり計画に盛り込んでいきたい。将来を

担う若い人たちからの意見も期待している」と話していた。

URLは<http://www.aibalab.com/vpc/>

